

第42回東京延友会

延岡に思いはせ交流

関東圏在住 20〜80代、世代超え集う

関東圏で暮らす延岡高校出身者の同窓会第42回東京延友会(佐藤純二会長、神崎明実行委員長)がこのほど、東京都港区の多ハイクホテルで開かれた。バック、トゥ、ザ延岡 世代を超えてのテーマの下、東京近郊を中心に20〜80代の幅広い世代の卒業生約200人が出席し、友情を深めた。

懐かしい延岡のあの語り合う機会にしようと、迎える34回卒(昭和57年頃)あの場合を思い出し、毎年開いている。53歳を卒が幹事を担当。創立



卒業生ら約200人が出席、にぎわった第42回東京延友会

100周年時の「第45回同窓会」の実行委員を務めた世代で、当時、多くの仲間が延岡に駆け付けてくれた恩返しに、今回は延岡から同窓生9人が手伝いに上京した。

旧制延岡中学校1人(88歳)、延岡高等女子学校3人(86〜89歳)、岡富高校1人(86歳)、岡富高校39人(76〜84歳)、延岡高校155人(22〜75歳)。



久しぶりに再会した友人同士で記念写真

来賓16人をはじめ、10年後に担当幹事となる43歳

を迎える世代本人を含む実行委員49人が集う会場は、乾杯の音声を全国に熱気は最高潮に。実行委員の娘の方波見もえさんと伊崎なるみさんが神楽「浦安の舞」を披露したほか、延岡観光協会「延岡花物語」や「工都のへおか」花物語の一説明、34回卒延岡在住の竹尾浩子さんの独



肩を寄せ合い大きな声で校歌を歌う卒業生

唱、航空子ケットなど豪華景品が当たるお楽しみ抽選会なども会を盛り上げた。

52回卒(平成12年卒)の柳田亮さんによる「第63回同窓会」来年5月21日・延岡高校体育館の案内に続いて、参加者全

後、34回卒で同校応援団56年度団長の戸田正毅さんが、母校の発展を願いエールを送った。

神崎実行委員長は「この代よりも若いスタートだったと思うが、いったん動き始めると実行委員の頭振りや着々と課題がクリアに。同級生の35年の頑張りを垣間見ると

もに絆を強く感じた」と感慨、佐藤会長は「東京延友会が会員相互の親睦を深め楽しい交流の場となり、母校の発展に貢献できるような一歩を踏み出さなければ」と話した。

実行委員の応援と駆け付け、司会を務めた延岡市の柳田静郷さんは、3

年間の高校生活を共にしていなくても、先輩・後輩という間柄だけでこれだけ多くの人が集まり、後輩といっただけで優しく話していた。延岡から来た私たちが温かく迎えていただき、ありがた



世代を超えて交流を育む出席者



各テーブルで話が弾み高らかな笑い声が響く



母校の発展にエールを送る元延岡高校応援団長の戸田さん

第42回東京延友会・総会・懇親会



第42回東京延友会を成功に導いた実行委員会メンバー

門川高校百周年こぼれ話

内藤家顕彰会 会長 大崎清

中

内藤政公という人は、されたい。とぼろぼろはいなかった。

を口にする人もいたらしく、それらの人たちはなだめるため政公は延岡の城山の麓に豪華な図書館兼学生会を自費でつくって寄付されたのであった。

経て大正5(1916)年、

藤原美氏、黒田昭氏など、知り合いの立派な方々の名があるのはうなずける。さらに上級学校へ進学した優秀卒業生には返還不要の多額の奨学金も出してもら

高3部長もつたつたらしい。日高校長は明治17年、宮崎市の生まれ、当時33歳、東大農学部農業教員養成所を卒業の高名な農業教育者で福岡で教壇に立っていた。富高の校長に就任する

1月14日、北郷の神田でどんど焼き

はやし立てたり、どんどんと燃える様子などから「どんど」の名前が付いたとされる。

久しく途絶えていた北郷のどんど焼きは、平成24年に宇納間地蔵奉賛会や役場北郷支所、北郷商工会、同青年部、町観光

向市など真北在住の美郷出身者の皆さん、ぜひ参加してください」と参加を呼び掛けている。

雨天順延、問い合わせは、北郷商工会内の美郷町観光協会北郷支部(☎09082-62-589)へ。